

臨床で体重減少など確認

珪素シンポで「umo」の研究結果発表

岡田憲己社長



水溶性珪素の原料メーカーであるAPAコーポレーション（エーピーエー、本社愛知県、岡田憲己社長、電話0566-93-1100）など3団体は2020年12月13日、「第2回珪素シンポジウム」を、都内の東京コンベンションホールで開催、愛知医科大学の福沢嘉孝教授が、水溶性珪素「umo（ウモ）」について、ヒト臨床試験の論文投稿が完了したことを報告。生活習慣病合併脂肪肝の患者を対象にした試験の結果、体重・腹囲の減少効果や、肝機能障害の指標である「AST」の改善傾向などが確認されたと発表した。有害事象もなく、安全性も確認されたという。同シンポジウムでは、富山県立大学の立田真文准教授の講演も行われた。

福沢嘉孝教授



立田真文准教授



同シンポジウムは、同社と、珪素に関する学術研究を推進する（一社）日本珪素医学学会（事務局東京都）、約40人の医師・学識者で構成される日本珪素医療研究会（事務局東京都）が共催した。愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの教授兼センター部長を務める福沢嘉孝氏は講演で、「ウモ」を使ったヒト臨床試験の結果が、査読のある学術誌「アジア国際健康促進・未病改善医学会電子版」に論文として掲載されたことを報告した。

同試験では、脂肪肝の患者40人を対象にランダム化比較試験を実施。脱落者を除く計25人で評価を行った。水溶性珪素摂取群には、1日約9ミリのウモ濃縮溶液（水溶性珪素として1日約80ミリ）を、6カ月間摂取させたという。その結果、水溶性珪素摂取群の「体重」に有意な減少が確認された。「腹囲」の有意な改善も確認。肝機能障害の指標である「ChE（コリンエステラーゼ）」の改善も確認された。「AST」にも改善傾向がみられた。

福沢教授は「NASH（ナツシユ、非アルコール性脂肪肝）やNAFLD（ナッフルデー、非アルコール性脂肪肝疾患）の患者が摂取することは有益だと考えられる」と話した。水溶性珪素を摂取させなかった群では3カ月経過後に、「アディポネクチン」が有意に減少した。血栓を分解する線溶系の活性化の指標となる「PAI-1」についても有意な改善を確認。血栓症のリスク軽減効果も示唆された。同研究では「体重減少作用やアディポネクチンの変化と合わせて糖尿病への効果も期待されている」とも話した。同研究では「臨床的な有害事象は観察されず、ヒトへの水溶性珪素の経口投与は安全性がある」とも話している。

富山県立大学工学部工学研究科の立田真文准教授は、「『粗製珪素』非晶質の誤認識がもたらす危険と粗製珪素の物性」をテーマに講演、珪素製品の安全性について話した。立田准教授は「一般的に、結晶質のシリカは、吸い込むと発がん性があり危険、一方非晶質のシリカは安全」と認識を示した。その上で、「結晶質か非晶質かは見た目などでは分からず、最終的にはX線解析をしなければ分からない」とし、「シリカは、とても有用な物質であるが、とても怖い物質でもある」との認識を示した。結論として「しっかりと技術を持つ、信頼できる会社から商品を購入すべき」と呼びかけた。

同シンポジウムでは、内藤医院総合診療治療院の院長を務める内藤真礼生医師も、「水溶性珪素の作用機序と生体マトリックス・松果体の関係」をテーマにリモートで講演した。同治療院では、水溶性珪素を、治療に応用しているという。内藤氏は、水溶性珪素の効果について、「生体マトリックスの補修・活性化と、生体マトリックスの中核である松果体の活性化に作用するものではないか」と仮説を提示した。生体マトリックスは、細胞の内側から全身の皮膚まで続く連続体。臓器組織周囲系は、細胞の中、核の中までつながっているという。内藤氏は「有害物質や老廃物は生体マトリックスに蓄積される可能性が高く、線維化・硬化・石灰化を介してさまざまな体調不良につながる可能性がある」との見方を示した。その上で、「水溶性珪素は、珪素を主成分とする松果体の賦活や、生体マトリックスの線維成分の補修・強化を介して働いている可能性がある」との考えを述べた。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

一方非晶質のシリカは安全」と認識を示した。その上で、「鉱物由来・結晶質、植物由来・非晶質と考えると、れがだが全くの誤解。鉱物由来でも適切な処理をすれば非晶質になるし、もみ殻などの天然植物由来でも、加工温度などを誤ると危険な結晶質になる場合がある」と話した。その上で、「結晶質か非晶質かは見た目などでは分からず、最終的にはX線解析をしなければ分からない」とし、「シリカは、とても有用な物質であるが、とても怖い物質でもある」との認識を示した。結論として「しっかりと技術を持つ、信頼できる会社から商品を購入すべき」と呼びかけた。

立田准教授は「一般的に、結晶質のシリカは、吸い込むと発がん性があり危険、一方非晶質のシリカは安全」と認識を示した。その上で、「結晶質か非晶質かは見た目などでは分からず、最終的にはX線解析をしなければ分からない」とし、「シリカは、とても有用な物質であるが、とても怖い物質でもある」との認識を示した。結論として「しっかりと技術を持つ、信頼できる会社から商品を購入すべき」と呼びかけた。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

もしている。これらの試験結果を基に、同論文では「水溶性珪素を毎日経口摂取することによって、食事・運動療法に有意な上乗せ効果が得られ、有害事象も皆無であった」と結論づけている。福沢教授は講演で、臨床試験の経緯や結果などを分かりやすく解説。有効性の解明や、適切な摂取量の算定を進めるため、「さらなる大規模臨床を行っていきたい」と意気込みを語った。

天然植物由来だから安全というのは誤解

産学連携を推進しデータを豊富に蓄積

質疑応答の様子

一方非晶質のシリカは安全」と認識を示した。その上で、「鉱物由来・結晶質、植物由来・非晶質と考えると、れがだが全くの誤解。鉱物由来でも適切な処理をすれば非晶質になるし、もみ殻などの天然植物由来でも、加工温度などを誤ると危険な結晶質になる場合がある」と話した。その上で、「結晶質か非晶質かは見た目などでは分からず、最終的にはX線解析をしなければ分からない」とし、「シリカは、とても有用な物質であるが、とても怖い物質でもある」との認識を示した。結論として「しっかりと技術を持つ、信頼できる会社から商品を購入すべき」と呼びかけた。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

同シンポジウムの冒頭には、APAコーポレーションの岡田社長があいさつし、「当社では、珪素原料を毎月30トアウトしており、300社にOEM供給されている。産学連携を推進しており、愛知医科大学など六大学との産学連携を進め、豊富な機能性、安全性データの蓄積に努めている」と話した。同会では他に、日本珪素医学学会の副会長を務める菅野光男医学博士や、life park.biz（本社東京都、渡部裕也社長）の金子昭伯会長による講演も行われた。シンポジウムの最後には、福沢教授、立田准教授、金子会長、岡田社長の参加の下、パネルディスカッション形式の質疑応答も実施。盛り上がりの中、閉会した。

未来を拓く珪素の力

水溶性珪素umo®

微量ミネラルの1つである珪素（シリカ）を水晶石から特殊な製法で抽出した非晶質（アモルファス）珪素です。水溶性珪素「umo®」は多くの安全性や機能性が立証されており、原料として食品、化粧品、農業、畜産などあらゆる分野で応用されています。

umo®濃縮溶液

【珪素含有量】
8,000~9,300ppm
【容量】
2ℓ・20ℓ
【用途】
食品・サプリメント・
清涼飲料水・化粧品

umo®ミクロンパウダー

【珪素含有量】
30%以上
【容量】
100g・1kg
【用途】
カプセルや錠剤などの
サプリメント・化粧品

水溶性珪素umo®は抗菌・抗ウイルスにも有用

- 各活性酸素種に対する消去能測定
- ウイルス不活化試験 ネコカリシウイルス
- 殺菌効果試験（大腸菌・レジオネラ菌）
- 殺菌効果（コレラ菌） ●保存効力試験 など

<第2回珪素シンポジウム 2020年12月13日 開催しました>

愛知医科大学大学院医学研究科 先制・統合医療包括センター教授 福沢嘉孝 特別講演「生活習慣病合併脂肪肝における水溶性珪素の有用性の検討」… 他
総括 ※アジア国際健康促進・未病改善医学会電子版に論文投稿完了
食事・運動療法に併用して水溶性珪素を摂取した場合、非摂取に比べ、体重・BMI・腹囲・内臓脂肪・肝機能などの数値が有意に改善された。

<珪素含有量について>
食品衛生法で0.93%以下に定められています

無償サンプル
供給します

株式会社 APAコーポレーション
本社 愛知県安城市新明町4-7
TEL:0566-93-1100 FAX:0566-93-1177
URL: http://www.apa-corp.jp